

## 令和3年度（2021年）吹奏楽コンクールにおける 発声や特殊奏法による発音を含む楽曲についての対策について

課題曲及び自由曲において発声や特殊奏法による発音を含む楽曲についての対策を求められる場合の対応について、全日本吹奏楽連盟が現時点においての見解を次のようにまとめました。

### ◎課題曲V 『吹奏楽のための「幻想曲」－アルノルト・シェーンベルク讃』の取り扱いについて

ア breath sounds(through the instrument) (※1)

- (1) 演奏する際、必ずしも本番にて使用するマウスピースは使用しなくてもよい。スペアのマウスピースを消毒して使用することもできる。
- (2) マウスピースの装着時、着脱時に不意の金属音がすることは好ましくないので、市販されている練習用のプラスチック製のマウスピースを消毒して使用することもできる。
- (3) 演奏の際は、飛沫が飛ばないようにしっかり上唇と下唇でマウスピースの管（シャンク＝リムの反対側）の部分を包み込み、口腔内で「シー」という音を発し、管体に息を吹き込んでもらいたい。間違ってバジングの音を発することがないように注意が必要。

これらのことについては作曲者に確認済みです。

- (※1) トランペット、ホルン、トロンボーンパートの2～3小節目  
トロンボーン、ユーフォニアム、チューバパートの20～21小節目  
方法等はそれぞれ総譜の欄外（下側）に記載されています。

イ breath sounds(ため息 ha) (voiceless) without instrument (※2)

次の(1)～(3)のいずれかを団体の判断で選択してください。

- (1) 感染防止対策をした上で楽譜どおり演奏する
- (2) マスクを装着した上で発音する
- (3) 発音しない

(1)～(3)のどれを選択しても、この部分は審査の対象とはしない。

このことについても既に作曲者から了解を得ています。

- (※2) トランペット、ホルンパートの21～22小節目

### ◎大会会場の開催条件への対応について

全日本吹奏楽連盟が演奏可能とした条件に対して、大会会場となる施設が、コロナ蔓延防止のためにより厳しい条件（発声や特殊奏法による発音の禁止等）を出した場合、当該施設の条件に従って演奏を行ってください。

自由曲の場合においても当該施設の条件に従って演奏を行ってください。

### ◎発声や発音を伴う楽曲の審査について

当該施設の条件に従って課題曲を演奏する場合は、当該大会の審査員に対して、その部分を審査対象外としないよう、大会担当者から説明してください。

このことについても既に作曲者から了解を得ています。

自由曲の場合も同様とする。